

○議長(五十嵐健一郎君)

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。〔17番 伊藤文博君登壇〕

○17番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

事前に提出いたしました発言通告書に従って、2点について質問いたします。

まず、総合計画の各課題に対する対策の進捗状況と今後の対策についてであります。

平成18年11月に総合計画が策定され、市長は「『翠の交流都市』の実現には、産業振興による仕事づくり、安全・安心な暮らしづくりを重点に施策を進め、人口減少に歯止めをかけ、定住を促進することが最も重要」と言っています。

間もなく、策定後満2年を迎え、毎年ローリングの実施計画も見直す時期がやって来ています。

市長4年間の最終年度も残り半分となった現時点での、下記課題に対する対策の進捗状況と今後の対応について伺います。

- (1) 要介護高齢者の増加防止。
- (2) 地域医療体制と介護サービスの充実。
- (3) 年少人口及び生産年齢人口の減少防止。
- (4) 未来を創造する子どもの教育。
- (5) 地域社会を支える人づくり。
- (6) 交通通信基盤の整備。
- (7) 地域産業の振興。
- (8) 安全・安心な生活環境の確保。

次に、教育の充実についてであります。

学習指導要領が改正され、「『生きる力』の理念の実現のために、これまでの学校現場等での課題を踏まえ、指導面などでの具体的な手立てを確立することを目指します」としています。また、新学習指導要領は、国の『最低基準』を示したものであることを従来以上に明確にした」とも言っています。

糸魚川市は総合計画において、明日を担うまちづくりとして、基本構想では、保育園、保育所、幼稚園や学校、家庭、地域、企業、行政機関が連携し、ふるさと糸魚川の新しい時代を切り開き摺り、心豊かでたくましい市民を育成するため、市民一人ひとりがともに学び、心身ともに健全に成

長する人づくりを進めるとし、基本計画では、人間としての普遍の価値と、時代や社会とともに変化する価値をしっかりと見きわめ、みずからの揺るぎない生き方を求めていく、たくましい実践力が必要となっているとしています。

糸魚川市として特色ある教育の実践を通じて、「明日を担うひと」を大切にした市政を展開し、ふるさと糸魚川の新しい時代を切り開いていく力を養わなければなりません。

次の点について、市長、教育長の考えを問います。

- (1) 糸魚川市の教育の特色はなにか。
- (2) 周辺他市町村との教育環境の格差の現状と対策はどうか。
- (3) 教育施設の充実についての計画と進捗状況はどうか。
- (4) 「個人の可能性を最大限に引き出す」という視点で考えたときの「学力向上」における現状と課題、対策はどうか。
- (5) 小・中学校における「道徳教育」の充実についての課題と対策はどうか。
- (6) 平成24年からの中学校1、2年生での武道必修化に対する課題と対応はどうか。
- (7) 豊かな心と学力向上を図るための教職員の資質向上と人材の確保についての現状と課題、対策はどうか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の総合計画の各課題に対する対策の進捗状況と今後の対策につきましては、質問内容が行政全般にわたっておりますことから、概要を申し上げます。

1点目、要介護高齢者の増加防止につきましては、介護予防サービスの充実に努めるとともに、市民みずからが運動による健康づくりと生活習慣病の予防の取り組みを行ってまいりました。

今後の対策につきましては、引き続き介護予防事業の推進に努め、また健康づくりセンターを拠点として市民の健康づくりを推進し、要介護高齢者の抑制に努めてまいります。

2点目、地域医療体制等につきましては、365日 24時間の受診機会の確保を、現在でも糸魚川総合病院並びに糸魚川医師会の協力により体制を維持いたしております。

今後も関係者との連携を深め、現体制を維持できるよう努めてまいります。

介護サービスの充実については、地域密着型介護老人福祉施設の整備の支援など、暮らしやすい環境づくりに努めてまいりました。

今後の対策は3カ年の事業計画を策定中であり、介護サービスの対応について定めてまいります。

3点目、年少人口及び生産年齢人口の減少防止につきましては、人口減少対策検討チームを設置し、主に子育てしやすい環境整備を中心に取り組み、さんさん子育て協賛店など多くの市内企業の協力を得ております。このことは、地域で支え合う気運の醸成に効果があったものと考えております。また、本年度から企業支援室を設置し、既存企業の活性化を図り、雇用の促進と若者の地元就職支援を実施いたしております。

今後引き続き、産み育てやすい環境づくりと、若者の定住に向けた取り組みを進めてまいります。

4点目、未来を創造する子供の教育につきましては、糸魚川市学校教育の大綱をもとに、具体的な努力目標と実践内容を掲げ、充実を目指した取り組みを進め一定の成果を上げております。

特に、各中学校区を単位といたしました幼・保・小・中学校の連携協力体制の確立では、今回の学習指導要領の改訂に伴って、今後もより一層の連携強化を図っていく方針であります。

5点目の地域社会を支える人づくりにつきましては、年1回開催される地域づくりフォーラムや、各種地域づくりに関する視察研修などを中心に実施してまいりました。

今後は地域づくりに関する各種補助制度の活用を通じた人材育成が有効なことから、補助制度の活用についてPRに努めてまいります。

6点目、交通基盤につきましては、糸魚川交通ネットワークビジョンを指針として、6バイパス、4流域、2ルート of 完成を目指しております。

東バイパスは、平成21年度末には梶屋敷・大和川間の1.8キロの暫定供用を開始する予定であり、国道8号親不知地内については、雨量規制の緩和がなされることとなります。

路線バスの連行については、運行路線や連行ダイヤの見直しを糸魚川バス株式会社と検討に検討を重ね、バス交通の利便性向上に努めてまいりました。交通空白地への対応や高齢者、交通費助成の改正についても、庁内関係課で検討するよう指示いたしているところであります。

7点目、地域産業の振興につきましては、企業への総合的な支援により産業振興を進め、働く場の確保に努めております。また、高校卒業生の地元就職促進、U・Iターン就職の促進、研修や資格取得の助成など市内企業の就職促進と、企業を担う人材育成の支援に努めております。

今後各産業経営者の意見を拝聴し、地域産業の振興に取り組んでまいります。

8点目、安全・安心な生活環境の確保につきましては、環境への取り組みとして環境美化推進事業や企業との公害防止協定の締結、環境基本条例の制定などに努めてまいりました。

今後は環境基本計画及び一般廃棄物処理基本計画の策定、火葬場の整備などを進めてまいります。

防災の取り組みについては、自主防災組織を育成し防災ガイドブックや土砂災害ハザードマップを全世帯に配布するなど、地域ぐるみの防災意識の醸成に努めているところであります。また、地域防災計画に基づき、全庁で取り組んだ防災訓練など、防災危機管理体制の充実を図ってまいりました。

今後自主防災組織の育成、防災リーダー研修、出前講座などを行い、市民一人ひとりの自助、共助の防災意識の醸成に努めるとともに、防災危機管理体制の充実を図ってまいります。

事故の防止、犯罪被害の抑止対策については、市民によるボランティアパトロールを実施し、児童生徒の事故の防止や被害の抑止に効果を上げていると考えております。

今後は犯罪のない安全・安心なまちづくり条例に基づき、具体的な推進計画を策定することといたしております。

大変長くなりましたが、2番目の教育の充実についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小松教育長。〔教育長 小松敏彦君登壇〕

○教育長(小松敏彦君)

それでは、2番目の教育の充実についてのご質問にお答えいたします。

1点目の当市の教育の特色ですが、ふるさとに学び、たくましく生きるを期待する子供像に掲げており、糸魚川の人、文化、歴史、自然にかかわり学ぶ体験学習を推進しております。

2点目の教育環境の格差については、上越市と比較しますと高校や大学、専門学校等の設置状況が異なっていることは事実であります。

また、これは特定の地域ということではございませんが、一般的に当地域の教育支援の力というのは、まだまだ地域に有効に存在しているものと考えております。

3点目の教育施設の充実については、田原議員の質問でもお答えいたしましたが、国では早期に学校施設の耐震化を完了するよう求めており、市といたしましてもこの期間内での耐震化を達成すべく、計画を立案しているところであります。

この計画の中では、耐震補強にあわせまして大規模改修にも対応する予定でありますし、老朽化した校舎、体育館についても改善したいと考えております。

4点目の学力向上につきましては、学習指導では基礎的、基本的な知識、技能の習得と、活用する力を身につけさせる授業の実施に努めております。

そのために児童生徒の意欲を高める指導、わかりやすい授業、個別指導の充実等を目指した教職員研修の実施に力を注いでいるところでございます。

今後も児童生徒の実態に応じて習得、定着に力を注ぐ場合には、家庭学習等との連携を図った補充指導の工夫を図ってまいりたいと考えております。

5点目の当市の道徳教育の課題は、児童生徒によりよく生きようとする心情と、実践的な力を育むこととあります。その対策として、発達段階を踏まえ倫理観や規範意識、命を大切にする指導を進めております。

また、地域や家庭と連携して、体験活動を生かした道徳教育を進めているところでもあります。

6点目の武道必修化についてですが、現在は武道は選択制となっておりますが、当市の中学校では柔道または剣道を1年生で全員履修しております。したがって、必修化になっても対応に大きな変化はないと考えております。

7点目の教職員の資質の向上については、各種の教職員研修の充実に努めているところでございます。また一方、新採用職員の配置がふえておりますので、対応した計画的な研修を今後検討してまいりたいと考えております。

教職員の人材確保につきましては、今後も県教委と意思の疎通を図りながら、適正な人材確保に努めてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

1点目の質問について、再質問いたします。

要介護高齢者の増加防止ですが、健康づくりセンターの着工が延期される中で、先ほど21年着工、22年完成というお話がありましたが、健康づくりをモデル地区で行って、これから全地区への展開をしていくということなのですが、この全地区漏れなく網羅されるというのは、いつごろになる予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(小林 忠君)

お答えをいたします。

健康づくりセンターを核にして指導者等を養成しながら、あと広く全公民館を対象に広げていきたいということで計画をしておりますけれども、今の段階で4、5年先を目途に計画を進めさせてもらっているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

これは委員会でお話したこととちょっとダブってしまうんですが、健康づくりセンターの機能と、今ソフト面の方が先に先行していますので、健康づくり施設としての施設そのものの機能と、それから健康づくりの中心基地としての機能というソフト的な機能を果たしていかなければいけない。

今、健康づくりセンターを核にして指導者を養成するという話がありましたが、ここのとこの今進んでいるものと、健康づくりセンターとの具体的に役割のかみ合わせと言いますか、全体像というのは、委員会ではまだちょっとはつきりしてなかったんですが、もうできていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(小林 忠君)

お答えをいたします。

健康づくりセンターを中心にして周りとの関係になりますけれども、健康づくりセンターそのものは先ほど申しましたように、指導者を育成しながら、それからおかつ本来的健康づくりの施設としながら、周りの例えば既存の施設に、そこで養成した指導員を派遣しながら進めていくという考え方でありましてけれども、明確なスケジュールという形では、現在の中ではまだでき上がっておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

健康づくりセンターの計画のときに、介護予防のための施設としても有効なんではないかと。したがって、そのプールも例えば車いすの方が入れるような形を考えてほしいというようなことの協議はされてきたわけですが、介護予防との連携については、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小掠福祉事務所長。〔福祉事務所長 小掠裕樹君登壇〕

○福祉事務所長(小掠裕樹君)

健康づくりと介護予防の関係ではありますが、介護予防そのものも要介護状態間際になっての取り組みではなくて、それぞれのライフステージに合わせた、早目の健康づくりに取り組むというのが大変重要であるというのは、高齢福祉の観点においても健康づくりの観点においても、今言われておることでもあります。

そういう観点からいけば、狭い意味の介護予防ではなくて、長い目で見た介護予防という取り組み、その部分については、当然、健康づくりセンターの中に織り込まれていくというふうに考えております。

それから水中運動が、非常に高齢期になっても有効であるということを考えますれば、プール等を使った高齢者に対する介護予防事業、これも当然その中でプログラムとして、組み込んでいくということと考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

まさにその境目が無いんだと思うんですよね、健康づくりと介護予防の境目はない。市民の側から見たら、ずっと運動していることが、結局、生涯スポーツが今の健康づくり運動になり、そして介護予防になっていくということであって、今自分がやっているのは何なのかということ、行政側でいうそういう区分は意識してないということだと思えますよ。

健康への指向性を高揚するのは、どうするかということになってくるんだと思うんですが、少しの刺激で運動を始める人、これは割と簡単ですよ。もともと運動の好きな人はもちろんですが、ところが最も運動が必要な人たち、介護予備群と言われるような人たちになると思うんですが、どうやって運動させるかと、これがかなり重要な課題になってくると思います。

私が議員になる前に、青海町のスポーツ振興審議員というのをやってたんですが、そのときの会長さんは内科医の藤森先生でした。町全体のスポーツの話をしていても、藤森先生の話はいつもどうやって歩かせるか、歩き方が重要なんですよという話をすれば、いや、歩き方なんかいいんです、とにかく歩いてほしいと。どうやって引っ張り出して歩かせるかというような話でした。そのぐらい、やはり本来運動してほしい人たちが、なかなかできないということで、前に和光市の例をお話しましたが、各部署が横の連携をとって、老人福祉の部分との連携というのは非常に重要になってくるんじゃないかと思えます。在宅で運動させると、こういうことがないと、なかなか健康を取り戻せないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林市民生活部長。〔市民生活部長 小林清吾君登壇〕

○市民生活部長(小林清吾君)

お答えいたします。

健康づくりセンターにはじまって介護予防の観点からお話になってきておりますけれども、基本的には、どの視点で取り組んでいくかということになろうかと思えます。健康づくりという中には、先ほどの甲村議員との関連も出てきますが、やはり市で健康づくりという形の中で、最終目標としておりますのは、健康寿命の延伸ということで、ちょっと言葉は悪いんですけども、ピンピン、コロリの世界かなというふうに思っております。

健康づくりセンターをじゃあ何をやるかということでは、これは健康づくり全般を基本的にはやっていくと。基本的にやっていくというその背景には、健康づくりセンターを拠点としてやるというのと、各地域、具体的には公民館ですとか、いろんな施設がありますけれども、その地域での展開というのと、拠点施設での展開という、この二面性があるかと思えます。

在宅という中では絞って考えれば、やはり健康づくりの延長線、広い健康づくりという意味の中に入るのかなというふうに思っております。健康づくりセンターは、健康づくりの中で在宅の介護予防ですとか、いわゆる高齢者の方の部分ですね、そのところはやはり今度はもうちょっと健康づくりの中で焦点を明らかにした上で、どういう形で健康づくりと結びつけていくかということに、今度はなろうかと思えます。

今の段階では具体的には、健康増進課と福祉事務所と生涯学習課の3課で、介護予防も含めた健康づくりをどのような形で進めていけばいいかというようなことで、今庁内で検討を始めておる段階でございます。これはやはり健康づくりセンターができた暁にはというのも当然でございますが、やはり健康づくりセンターができる前から、いろんな形の中で何ができるのかと、何をしなきゃいけないのかというようなことで、事務方でベースづくりをしているというのが今現状でございます。議員が先ほど言われましたように在宅の介護予防ですとか高齢者対策というのは、やはり健康づくりを核とした中で、おのずとそれには取り組んでいかなきゃいけないのかと。

冒頭申し上げましたように、取り組むときには何を目標に、視点に置いていくのかと。これはいろんな置きかたがあると思えますけれども、最終的には健康づくり、健康寿命の延伸というのが、最終目標になるんでないのかなということで、現在取り組んでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

3課での庁内検討ということで、まさに私が思っていた形で今検討されているということですので、

境目のない生涯スポーツから介護予防までつながったような形で、計画をしていてもらいたいと思います。

地域医療体制ですが、基幹病院である糸魚川総合病院は市の方でこ入れで一応の形がついてきた。これは開業医の先生方に、役割の一端を担っていただいている部分も多いわけですが、市内の開業医の先生方の状況を見たときに、多分、高齢化している部分も多いんだらうなと思います。そこに対する今後の対策と言いますか、市としてこういうことで、てこ入れをしていきたいというようなものはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(小林 忠君)

お答えをいたします。

議員おっしゃるように市内の開業医さん、高齢化も進んでおると。そういったことの対策の1つでございませけれども、開業医に対する助成制度と言いましょか、なるべく開業医さんの開業を促すというような観点から、そういう補助事業を制度化をいたしまして取り組みを始めている最中、そういった段階であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

助成制度に対して応募を待つという形だと思うんですけど、これはどちらかと言うと制度をつくった上で受け身ということなんですけど、積極的に今後また、この部分も考えていかなければいけないところだらうなと思います。

今後の検討課題だということですが、それを含めて地域医療計画というようなものが、定められていかなければいけない。計画というものになるのか、ビジョンというものになるのか、これについては委員会でも今後決めていくということが、昨年度の委員会で言われてたわけですが、今のところまだ出てきておりませんね。検討の状況というのはどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(小林 忠君)

今ほどの件でございますけれども、昨年度末でございますか、私の方の健康増進課の方で医療計画整備方針というような形で、公式的なものをお示しをさせていただいているというふうに思っておりますけれども、これをもとに現在ビジョンと言えいいのか、方針と言えいいのか、そういったものの肉づけをしながら策定をしている途上という段階でございます。またできた段階で、お示しをしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

それでは、その策定を待ちたいと思いますが、その中で具体的に1つだけ聞かせてください。

かかりつけ医の重要性というのは、もうずっと言われてますよね。今の基幹病院の負担を減らす上でも非常に重要だと。それからもう1つは、今の健康診断の制度が変わるときに、その辺も絡んできたんですが、なかなか実態が厳しくて、そのような形になっていませんが、この市民へのかかりつけ医を持ってくださいということの啓蒙というのは、今、十分なされていると考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 小林 忠君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(小林 忠君)

ただいまの件でございますけれども、議員に十分かと言われると、十分であるというふうにはなかなかあれですが、かかりつけ医の重要性というものにつきましてはホームページを通じてでありますとか、これはそれとはちょっと趣を異にはいたしてはおりますけれども、6月の半ばでございますか、医療フォーラムといったような場面を通じて、市民の方々に救急もそうでありますけれども、かかりつけ医といったような重要性を皆さんに広くアピールをしたいということで、開催をさせていただいております。

それが今年の大きなものでございますけれども、それ以外には先ほど申しましたようにホームページで、例えば1次、2次、3次の救急体制を説明しながら、その中でかかりつけ医といったものをご利用いただきたいといった形で、住民の方々にPRをさせていただいているというものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

十分でないというふうに認識されているなら、もう少しいろんな機会を通じて啓蒙していただきたいなというふうに思います。

年少人口、生産年齢人口減少対策というところですが、これは少子化対策というのは少子高齢化の問題を言われてから、少子化対策という言葉が強くて出てきたわけですが、もともとは子育て支援ということでやっていて、子育て支援は少子化対策に包括されているというふうには言えると思うんですが、少子化対策ということになれば、これは1つの生活支援ではないと。子供がよりたくさん産まれてほしいということになってくると、所得制限を設けるべきではないというような考え方もあると思いますが、この辺の議論というのは庁内できちっと、それぞれの事業についてされているものですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

少子化対策につきましては昨年ですか、検討委員会等をつくりましてさんさん子育て、あるいはコーディネート事業等を取り組んできたわけですが、今議員おっしゃいました所得制限の取り扱いについては、さっきどなたかの質問等にありましたが、やはり一定の考え方を持って対応しようじゃないかということで進めております。

ただ、その事業の内容によっては、やはり違った観点も必要かと思っておりますが、すべてがすべて無料ということの観点じゃないですよということは、いろんな機会のあることでは話をさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

何でもすべて無料がいいかどうかというのは、議論があるところだと思うんですけど、私が今言ったように少子化対策というのと子育て支援というのは、根本的にもうちょっと意味合いが変わってくるというところをやはり理解して、今後検討を進めていてもらいたいなと思います。

基本計画の中では、家庭教育の充実のところ、保・幼・学校、地域、企業、関係機関が連携して、

子供の心に対峙する理解や子育ての責任など、指導、相談や学習の機会を充実していくというようなことを言っていますが、実際にこのことについて、家庭教育の充実について、しっかりと連携が今実態としてとられていると思われませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺辰夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(渡辺辰夫君)

家庭教育につきまして、しっかりした連携がとられているかということでもありますけども、外で働いておられるお父さん方が、子供の子育てに参加することは重要であるというふうなことで、各企業さんとお話をさせてもらったりというようなことはさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

はっきり言って基本計画には書かれていますけど、実際の動きとしては十分じゃないと思うんですよね。これはなかなか難しいところだと思うんで、もう一度この点に着眼して、家庭教育の重要性が言われて久しいわけですから、やはりその部分が学校教育にも負担かけているというような実態がある。ぜひもう一度、きちっとここを見直してもらいたいと思います。

子供の教育については次の質問でやりますので、地域社会を支える人づくりのところですが、先ほど3課の連携ということでしたが、これをもう一度ちょっと聞かせていただきたいんですが、生涯スポーツの推進・生涯学習課と、健康づくり運動・健康増進課、そして介護予防・福祉事務所、この連携なんですけど、今、今度は協議しているということでしたが、この辺がはっきりとして形になって定まってくるというのは、いつごろになる予定ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林市民生活部長。〔市民生活部長 小林清吾君登壇〕

○市民生活部長(小林清吾君)

お答えします。

生涯スポーツ、福祉、健康分野、3課の連携なんですけれども、先ほど私、申しましたように、視

点をどこに置くかということで、まず私どもが今取り組んでいるのは健康づくりという視点から、その3課がどうやって連携していけばいいのかと。連携のその先にはどういう形があるのかということも今後の検討課題になってこようからと思いますが、やはりスポーツという面でとらえていくのか、健康づくりという観点からとらえていくのかによって、大分市民の皆様の受けとめ方も違ってくるのかなというようなこともございます。

今現実に私どもがやっておりますのは、健康づくりという観点の中で、介護予防も含めた健康づくりということで今検討を進めさせてもらっております。

○17番(伊藤文博君)

答えになってない。形になってつくり上がるのはいつごろになるか。

○市民生活部長(小林清吾君)

ですので、要は具体的な形とでき上がるのが、どういう形でもってでき上がるのが理想なのかというのは、まだ形と言うよりも事業展開がどういう形でなされていくのかというのは、まだ結論に至っておりません。それがいつごろかということもまだなかなか、調整することが多々ございますので、まだ入り口に入った、入り口をちょっと通過したぐらいかなというふうに感じております。

以上です。

[『議長』と呼ぶものあり]

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

健康づくりセンターが22年にできるのであれば、そこをどう生かしていくかという枠組みの中に含まれていく。その全体の枠組みの中にその部分が含まれていく話ですから、やはりそれが1つの目途になっているんだろうなというふうな気がします。今入り口に立って、これからだということであれば、またその辺の様子を今度聞かせていただきたいと思いますが。

基本計画の中に、生涯学習体系の整備の中で、指導者団体の育成というところに、人材バンクの活用というのがあるんですね。これがどうなっているかということと、それから日本体育協会のスポーツ指導員、上級スポーツ指導員等の市内での資格の取得状況というのは、今どうなっていますでしょうか。

[「議長」と呼ぶものあり]

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺辰夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長(渡辺辰夫君)

人材バンクにつきましては、合併前に1市2町それぞれで同様の名簿と言いますか、持っておったんですが、それを統合いたしまして、現在、新市全体として扱うものとして、一応名簿を持っております。各学校等にも、そういったものがあるよということの周知はさせてもらっております。

2点目の体育指導員の件ですが、ちょっと現在把握をしておりません。申しわけありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

1市2町時代の名簿を統合したとすれば、最新のデータではないでしょうし、今後ここで刺活用を言ってるわけですから、利用できるようなものに、まずしていかなきゃいけないということですから整備が必要でしょうと。

それから、もう1つは活用のもも、こんなもんありますよでは、やはり具合が悪いと思うんですね。やっぱり活用するシステムをつくっていかないといけないと思いますので、今後その辺も検討してください。

時間もあまりありませんので、次へいきます。

交通通信基盤の整備ですが、我々新政会では広報を出してまして、その中で当市の課題ということで、新幹線開業へ向けてのまちづくりの方向づけというようなことも課題として挙げております。

新幹線周辺整備について駅の南北の連携ですが、ハード面では自由通路という人間が歩いて通れる通路ができるということですが、これを生かしたソフト面の考え方。今は具体的ではないでしょうが、こんなふうはどういうこと連携して、進めていきたいというようなものはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺建設産業部長。〔建設産業部長 渡辺和夫君登壇〕

○建設産業部長(渡辺和夫君)

今お話のように、ハードについてはいろんな協議、申請業務を盛んにやっているところであります。それにあわせて、まちづくりの生かし方でございますけれども、今、まちづくり3法が改正になりまして、活性化協議会等でまた立ち上げて、周辺の定住人口の増加策をどのようにしていくかというようなことを、これから協議する手はずにしております。それらの計画を立てて、どのような糸魚川市として対応策があるか、これから詰めていくという段取りになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

ハード的には自由通路があって、これをどうやって生かしていくかということが、本当に一番大事なことになってくると思うんですよ。平面的に南北が繋がれば一番いいんですけど、在来線があるためそれはできない。そこにはもう一工夫本当はあったんかもしれませんが、その辺については、これからぜひ自由通路が活用される形で進めていっていただきたいなというふうに思っています。

高架下利用、これも一度質問がありましたが、新幹線によってまちが分断されるということについては、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

岡田新幹線推進課長。〔新幹線推進課長 岡田正雄君登壇〕

○新幹線推進課長(岡田正雄君)

お答えします。

新幹線で高架下によって南北が分断されるということについて、どのように考えているかということでもありますけども、基本的にはJ Rは施設の維持管理上、用地境会にフェンス等を設置しまして、一般の立ち入りを禁止するというのがJ Rの高架下の管理の基本的なスタンスでありますけども、高架下利用が100%だめだということではないと聞いております。

ただ、JRにつきましては、新幹線の運行また維持管理上支障にならない範囲や場所、また用途等、それから JR西自身が必要とする場所以外に、限定されることが予想されております。また橋脚部の防護等、かなり厳しい条件がつくということでもありますので、高架下利用についてはかなり難しいのかなと思っておりますけども、いずれにしても、先ほど言いましたように100%だめだということではないので、今後、南北の交流等、それから市街地の分断等を総合的に勘案する中で、どのような利用がいいのか考えていきたいと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

先日の答弁より一歩ちょっと進んでますね。今後、利用価値のある場所について、ぜひ協議をしていただきたい。青海時代から今の青海通線沿いについては、かなり地元と協議を重ねた中で、そういう形が進んできたという経緯もあるわけですが、一部、個人の地主さんが土地を売らないで地上権を売って、背後地を利用できるような土地の売買契約を結んだという例もあります。いろんな方法があるんじゃないかなというふうに思いますね。でき上がってから、あらっというふうに実感しても遅いということですので、ぜひ検討してください。

新幹線開業を契機とした交流の促進についてですが、これは世界ジオパーク認定との関連づけて、非常に今後楽しみなところがあるんですが、これについて何か構想的にありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

新幹線の開業を見据えたというわけではございませんけども、今後、日本ジオパークの認定、それから世界ジオパークの認定に向けまして、その後、このジオパークを活用する中で、地域の活性化について大いにやりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

新幹線を契機としたという考え方でどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

当然、新幹線も間もなく開業ということになるわけでありましてけども、ジオパークにつきましては、その辺を見据えたというよりも、またジオパークが既に認定されれば、その辺については

もう新幹線開業前でも非常に有効利用して、地域の活性化につなげたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

ちょっと微妙にずれてるんですが、いいですわ。

県道姫川橋ですが、先日、姫川大橋の西詰で多重追突事故が発生して2時間とまりました。このとき県道姫川橋は、工事のため交通止めになっていましたが、その後、工事を中止して、交通開放をしていただいたんですね。ところが今井橋、義翠橋は大変に混雑して、救急車も立ち往生した、救急車が全然動けない状態になった。この状況を考えると、姫川に架かる橋を中心にした交通体系を、もう一度考え直す必要があるんじゃないか。災害時にこのようなことが起きるといのは、もう十分考えられる。県道の姫川橋、これの架けかえというのが大きなポイントになってくると思うんですが、これについては。というよりも、その前に今回の事故の後に、こういう状況になったということについて、災害対応を含めて庁内で協議がされていたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

吉岡消防長。〔消防長 吉岡隆行君登壇〕

○消防長(吉岡隆行君)

お答えいたします。

今回の姫川大橋の事故を踏まえての庁内対応はいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

姫川橋の事故そのものではございませんけども、事故の広報の仕方ということで、旧1市2町でそれぞれ対応が異なりましたので、それにつきまして関係課を招集しまして、今後のその広報について統一ではないんですけども、各地区対応ですけども、きちんとしていということで調整をさ

せてもらいました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

山崎建設課長。〔建設産業部次長建設課長 山崎利行君登壇〕

○建設産業部次長建設課長(山崎利行君)

今、先般の具体的な交通事故に対しての対応ということでお話がございました。私どもこの事故を知ってどのような対応の仕方をしていかなきゃならんかというようなことで、これはやはりまさしく国、県と市が、どのようにうまく連携しているのかというような実例になってくるんだろうというふうに思っております。

ご存じのとおり県道の姫川橋につきましては、現在、昼間は完全な通行止めという状況のもとで、今回の事故が発生をしたという状況であります。私どもとしましては、まず早速県の方へ出向きまして、ぜひこのような状況のもとで工事を中止をしていただいて、極力解除をしてもらいたいというような申し入れをさせていただきました。そのような対応もとで3時から片側交通と言いますか、相互交通でございますけども、県が早急に対応していただいたというような状況はございます。

これはまさしく災害なり事故というものは、想定外のときに起きるものです。そういう中でいかに迅速に、また弾力的な対応というものが、これからますます求められるんだろうというふうに思っております。

そういう面からいきますと、今回の国道につきましても、いち早くご連絡をいただきたかったわけですが、残念ながら皆さん方もご存じのとおり維持出張所の所長さんそのものが、事故にお遭いされたというようなことで一部混乱もございました。そういう中で今回、最大限対応させていただいたという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

私は今回の対応が悪くて、それについて協議しろということじゃないんですよ。結局、姫川橋がたまたま工事してましたけど、県道の方は、これ大型車は走れませんよね。結局これが今井橋、翡翠橋に集中することによって、向こう側の交通が完全に詰まって、大型同士が集まってますから救急車も走れないという状況になったときに、これは災害時のハード面に、非常に問題があるんじゃないかという方向にいったほうがいいなと。じゃあ県道の橋の架けかえというのは、これは防災対策としても急務だよというような形に、進んでいくんじゃないかということなんですよ。

ソフト面は言われたように、協議してもっと開通を早くというのはあるかもしれませんがね、工事中止を、その点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

吉岡消防長。〔消防長 吉岡隆行君登壇〕

○消防長(吉岡隆行君)

総合計画にも課題としてうたっておりますように、災害の安全・安心のまちをつくるには、災害の発生防止とともに、被害を最小限度に食い止めるというのを、課題として挙げてるわけですが、いわゆる災害が不幸にして起きたときには、その被害の程度を少なくする、専門用語で減災と申し上げますが、この城災措置をするためには特別なことではなく、やはり市政全般のいわゆるハード整備を含め、あるいはソフト政策も含めた中で、いわゆる住みやすい、暮らしやすいまちづくりが完成した暁は、やはり防災にも強いまちになると思うわけですので、この防災という観点だけではなく、総合計画にうたわれた施策の展開をすることによって、ご提言のようなものについてのものが一日も早く解決できるように、我々防災当局の方も努めていきたいし、全市を挙げて取り組むべき課題と、かように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

ところがこの姫川橋の問題は、総合計画の中に入ってないんですよ。今回の事例が起きたときに、その重要性がわかるという点で、どう方向修正していくのかということになっていくんだと思うんですよ。今後、これを契機にちょっと課題として取り上げてください。

ちょっと時間がないので、地域産業の振興についてですね、これは既設の工業団地への新規企業の誘致について、市長は個々の案件に対応していきたいという方向性を打ち出しておられますが、既設の工業団地が今ああいうふうに空いてる状態で、これは併設でいかなきゃいけないと、両方の方式をとっていかなきゃいけないと思うんですが、今後の展開というのは、どのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

○商工観光課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

今ある3つの工業団地でございます。企業訪問する中でいろいろな情報提供をして、そこにおいていただく企業にも、情報を出しておるわけでございますが、正直のところ、なかなかそこに進出する企業が現実にはないというのが実情でございます。

その中でも青海の小本土の方には1件、新規の企業ではございませんが、市内の企業が進出をしたいというようなお話もございました。それをまた契機にしながら、我々としてはそういう情報を得る中でお勧めをしたり、また話の情報提供をしていきたいというふうじこ考えております。

現状では非常に厳しい状況の中で、工業団地を整備してすぐという状況ではないということも、ご理解をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

次に、先ほど安全・安心な生活環境の確保のところにちょっと入ったような感じだったんですが、同じようなことで、これも新政会の予算編成に対する要望事項の中にもありますし、広報の中の当市の課題にも挙げていますが、浦本地区下水道工事着手に伴う国道8号の渋滞深刻化が予想されると。高速道路の無料化、または大幅割り引きを求めて、東日本高速道路株式会社本社へ要請していただきたいというようなことを、要望事項等で挙げていたんですが、この点について何か動きはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

細井ガス水道局長。〔ガス水道局長 細井建治君登壇〕

○ガス水道局長(細井建治君)

お答えをいたします。

今ほど議員のご質問でございますが、3月の予算審査特別委員会で集約事項という形で取り上げられた問題でございますけれども、大変時間が経過したわけでございますけれども、この7月30日に市長と新潟にございます東日本高速道路株式会社支社長に対しまして、要望活動を行ってまいりました。8月11日に正式に回答がまいりまして、やはり法律の壁というのが非常にハードルが高くて、やはり対応ができないという回答をいただいております。

今後そんな形で、従来から取り組んでいる交通渋滞の対策、これを強化するとともに周知を徹底

してまいりたいと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

1つの方策、だめだという方向が出たんですが、ぜひもう一度粘り強く対応していただきたいのと、それから先ほどの事故のときの対応と一緒に、やはり救急車両等の通行についての配慮をお願いしたいと思います。

それでは、教育の方に移ります。

新学習指導要領は国の最低基準というということを、今まで以上に明確にしたということなんですが、親にとっては子供の教育というのは、人生最大の仕事の1つであるというふうに思います。

糸魚川に住みたいと思わせる生活環境というものには、教育は非常に重要な位置を占めるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

糸魚川に住む糸魚川のよさと言うんでしょうか、そういったものの1つに、教育環境というのは大きなものが占めていると私も考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

そうしますと、ほかの市町村には糸魚川市は教育に力を入れているから、ここに住みたいと思わせるような独自の教育政策というのが必要になってくるんですが、この点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

先ほどの教育長の答弁にもございましたが、当市の教育の特色は、ふるさとに学びたくましく生きることということでございます。ふるさとをフィールドにした総合的な学習等を積極的に進めて、その結果ふるさとを好きになると、そういう子供たちの育成に力を注いでいるところでございます。

そのための総合的な学習等の実施にかかわる予算についても、市として他市よりも多く配分していると、こんなふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

それは市民のニーズにこたえているというふうに考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

市民のニーズ全体を把握できているわけではございませんので、全員の皆さんのニーズに対応できているかと言われますと、そこまで自信がございませんが、糸魚川のことを好きになる、愛する子供を育てるということについては、どの市民も異論がないのではないかなと、こんなふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

これから教育にもしっかりと市民のニーズにこたえているかどうかということ、把握していくような努力というのは必要だと思うんですね。それはまた糸魚川市の長期展望、要するに教育の問題ではなくて、糸魚川市のまちづくりということに関しての長期展望に立った、特色づくりになっていなければいけないというふうに思うんですよ。だから教育委員会とほかの課、例えば企画財政の方とか総合計画の中の全体と、また照らし合わせて検証しながら改善していくというような、そういう場というのはあるもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

総合計画につきましては、毎年ローリングをしております。そういったことで各関係課とヒアリングをする中で、それぞれの各所管の計画、もしくは総合計画につきましても、それぞれ見直しをしていっているということでもあります。

○17番(伊藤文博君)

教育についてはいかがですか。

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

教育につきましても、教育委員会の方の計画につきましても、それぞれヒアリングをする中で、見直しを図っているというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

この項目はほかにも関連してきますので、また前後するかもしれませんが、お願いします。他市町村との教育環境格差ですが、これは糸魚川市だけですべて決定できて、構築していける問題ではない部分があると思うんですね。例えば中高一貫校については県の施策、国や県で決めていくことであるということで、糸魚川市だけの意思決定では何とかなる問題でない。

ただし、その中高一貫校を糸魚川市に設置できるように国や県と交渉する、または糸魚川市にな

いことで生じていく格差を埋める努力を、糸魚川市独自の教育政策で取り組んでいく、これどちらか必要ですよ。これについてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

教育環境の差ということで、先ほど教育長の方から答弁をさせていただきました。お隣の上越市と比較してということで、大学の設置状況ということをお話をさせていただきました。当然のことですが、上越には上越教育大学がございますし、看護大学もございます。残念ながら本市には、大学はございません。

大学がある、ないの違いで、何が子供たちにとって影響があるのかということで少し申し上げますと、ことし4月から、教職員大学院というのが上教大でスタートをしました。これは学習指導とか、生徒指導とか、学校運営等にかかわって教職員大学院の学生、ほとんどが現職の教員でございますがチームを組んで、それぞれの学校に入って行って、実際にその学校の先生方と一緒に取り組みをしながら研究を進めていくというようなものでございます。受け取る学校側にしてみれば、3人、4人と教職員がある意味、言葉は適切でないかもしれませんが、手伝いに来てくださるというようなことでもとらえることができます。こういったことが現状として、上教大がある、ないにかかわって、差があるかなというふうに思っています。

ぜひ糸魚川市としましても上教大と手を組んで、こちらの方にもそういった職員、大学院生を派遣していただくよう働きかけてまいりたい、そんなふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

そのことだけでなく、既存の小中で教育効果を高めていくことで、例えば中高一貫校のことだけにしても、その格差を埋めていくような努力というのは必要だと思うんですね、この今の上教大の問題だけじゃなくて。それについてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

中高一貫校と、地元の中学校ということになるのかなということになると思いますが、中高一貫校が盛んに自校のよさをアピールしております。当市の既存の中学校につきましても、従来にはなかった各小学校へ出向いたり、あるいは小学生に中学校に来てもらったりというような、早い時期からの自校のPRを今しているところでございます。

そういった中で、その学校の売りということになるんでしょうか、学力向上に向けてこういうふうに取り組んでいるよとか、部活動はこんなふうにやってる、学校の決まりは、あるいは学校行事はというようなことについて、それぞれの学校のよさについて6年生の保護者や子供たちに対してPRしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

言ってるのは中高一貫校に対して地元の中学校をPRするという話じゃなくて、教育効果というところで負けないように、糸魚川市の教育レベルを上げていくというところが必要じゃないかという話なんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

失礼いたしました。

1つには、小中学校の連携ということが挙げられるかと思えます。もっと言いますと、幼・保・小・中の連携ということ掲げてやっております。

地元の子供たちを中学校までというスパンで、それぞれ情報交換をしながら、あるいは互いに共通な研修をしながら、子供たちのために先生方が力をつける。そしてまた、それを子供たちに授業等で反映していくという、そういったあたりが中高とのまた違いではあるかな、こんなふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

ぜひその幼・小・中連携の力を発揮して、糸魚川市の教育レベルを上げてほしいと、中高一貫校に負けないレベルアップを、お願いしたいと思っています。

ちょっと時間がありませんので、個人の可能性を最大限に引き出すという視点で考えたときの、学力向上における現状と課題ということですが、これにはやはり先ほど教育長が言われたように、学習意欲の向上というのが、これ一番大事だということになるんですが、このポイントというのは何ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

学習意欲の向上にかかわってのポイントというご質問かと思います。大変難しい部分がございますが、1つには、わかる授業ということがございます。もう1つには、子供たちに興味、関心を与えてやってみたい、こういう気持ちを起こさせること。そのようなことを今考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

次の道德教育ともちょっと絡むんですけど、僕の考えは、学習意欲の向上というのは、目標、目的というのがなければならんと思うんですよ。いかに目標、目的を意識させるか。これはやはり最終的には、自分の人生ということが一度しかない、時間は二度と返らないというようなところに意識がいかないと、今のこのときの重要性というのをまず認識する。それから今言われたような興味、関心を引いていくような方策を、講じていくということがなければいけない。

道德教育にいけますが、例えば小学校低学年であれば、先生の言うことを素直に聞きますよね。ところが高学年だとか中学生になると、道德論をだれが言ってるか。先ほど言った人生は一度しかないよというような話を、だれがするのかということが非常に重要になってくる。そうなってくると、これは教員に非常に大きなウエートがかかってくるわけですが、道德教育に対する教員の意識というのはどうでしょうかね、かなり高いものがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

私ごとで大変恐縮ですが、私が現場にいたころは教科の指導の方がどちらかと言うと優先して、道徳の方はちょっと研究が足らなかったなど、今、自己反省をしているところでございます。

今、糸魚川市にいる小中学校の先生方は、研修等もかなりやっておりますので、以前の私なんかには比べれば、はるかに道徳教育に関して関心を持って研究もして、取り組んでおるといふ効を考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

やはり教員自身の自分自身に向けられる目というのが、非常に大事になってくると思うんですよ。これは管理する側で言うと、教員の資質を見きわめ再教育していくことが求められるということだと思っておりますけど、この教育については後でちょっと、7番目のところにありますので、そのときに一緒に聞きます。

今度、武道必修化についても、これは全く同じようなことが言えるんですが、なぜ武道を必修化にしたかということについては、どのように認識されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

武道が必修化されたわけですが、武道だけが必修化されたわけではございません。ダンスとか水泳とかそういったものも、現行の学習指導要領では選択になっておったわけですが、それらが1年生、2年生ともに必修というような形になっております。ですので、武道だけ取り出してというふうには、私は考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

いや、それ取り出してじゃなくて、質問として取り出しているんだから、その中から。だから、なぜ武道必修化なののかについて、答えてもらわなきゃ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

大変失礼をいたしました。

子供たちの体力の低下、運動能力の低下、そういったあたりから時数全体を増加させ、今ほど申し上げました武道も含めての各種目と言うんでしょうか、そういったものが必修化されたというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

中学校学習指導要領の解説では、ちょっとはしよりますが、武道は武技、武術などから発生した我が国固有の文化でありとあって、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにする。

態度では、武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること。分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ手を用いないなど健康、安全に気を配ることができるようにすること。

知識、思考、判断では、武道は単に試合の勝敗を目指すだけではなく、技能の習得などを通して礼法を身につけるなど、人間としての望ましい自己形成を重視するという考え方があることを、理解できるようにすると言っているんですよ。ここが大変重要なところですよ。だけど本来、スタート地点から言うと、これはかなり慎重に言葉を選んでいるわけですよ。我が国固有の伝統文化である武道を通して規範意識を高める、この辺が一番大事なところなんですよ。

じゃあ、それをだれが指導するかということが非常に大事になってきます。教育現場でどうするのかということをお聞かください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

今ほど新しい学習指導要領の解説についてお話をいただきました。現行の学習指導要領の解説書にも若干表現が違いますが、同じ内容のことが書かれております。

それと先ほど申し上げましたが、選択ではあったにもかかわらず、当市の1年生については必修でやってたということですので、先ほど来のその武道だけとか、何とかということでは考えておりません。

ただ、今議員ご指摘いただきました礼儀ですとか、規範意識ですとか、そういったことは非常に重要であると、私どもは認識しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

いずれにしても、道徳教育でも武道教育でも教員の資質が問われるということですので、教員を指導していくにはOJT、オン・ザ・ジョブ・トレーニングが重要になってくる。この体制を確立していくことは、非常に重要じゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

議員ご指摘のことは、校外へ出たの各種の研修よりも、日々の実践の中で先輩が、あるいは同僚がその場その場に応じてしっかり指導することの方が大事なことであるというご指摘だと思います。

私も全く同感でございますし、各学校には、そのように指示を出しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

優秀な教員を多く連れてくれば教育はよくなるというんですが、教員が働きたいという環境をつくってやる、このことについてはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

教員が働きたい、ぜひ糸魚川の学校に勤めたいと、そういう気持ちにさせること、私も大変重要なことであるというふうに考えております。そのために市としてやってることは、先ほど来申し上げましたとおり各種の研修、糸魚川へ来ると勉強ができるんだというようなこととか、先日も行いました教育講演会、糸魚川へ来るとこういう講演会も聞けるんだよというようなこと。

それから、先ほど教育長答弁にございましたが、新採用教員が、ここにきて多く配置されるようになりました。彼らがここに3年いた後、また他市に出ていくかと思いますが、またぜひ糸魚川に戻ってきたい。そんな気持ちを持ってもらいたいと思ひまして、ぜひこの新採用の教員にも熱い研修を実施していきたいと、こんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

もう時間がないので、とにかく教育全般を考えて、いろいろと今後改革を進めていっていただきたいと思ひます。

私の一般質問を終わります。

○議長(五十嵐健一郎君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。